# 『計量国語学』アーカイブ

| ID     | KK290610  |
|--------|---|
| 種別     | 学会参加報告  |
| タイトル   | QUALICO2014 (国際計量言語学会大会)                        |
| Title  | QUALICO2014 (International Quantitative         |
|        | Linguistics Conference at Palacký University in |
|        | Olomouc, Czech Republic)                        |
| 著者     | 真田 治子   |
| Author | SANADA Haruko                                   |
| 掲載号    | 29巻6号   |
| 発行日    | 2014年9月20日                                      |
| 開始ページ  | 235   |
| 終了ページ  | 238   |
| 著作権者   | 計量国語学会  |

#### 学会参加報告

# QUALICO2014 (国際計量言語学会大会)

--(2014 年 5 月 29 日~6 月 1 日. 於オロモウツ (チェコ)・パラツキー大学)--

真田 治子(立正大学)

## 1. 大会概要

今回の国際計量学会大会 QUALICO2014 は、チェコ東部の都市オロモウツ・パラツキー大学で、同大学一般言語学科の主催によって行われた。今回は学会創立 20 周年及び学会論文誌 Journal of Quantitative Linguistics の創刊 20 周年の記念大会であった。

会長ケーリッヒ (Emmerich Kelih) 氏 (ウィーン大学) の開会の辞によれば今回は「これまでにないほど多く」85 件の口頭発表・ポスター発表の応募があり、最終的に65 件が採択されたという。参加者は約60人、EU 各国の他、オーストラリア・ブラジル・中国・日本・カナダ・米国など20 か国以上に及んだ。この発表件数の増加を受けて、1994年の第1回大会以来ずっと1会場方式だったが、今回初めて2会場並行の大会になった。前回のベオグラードの大会参加者が17か国、約40名、発表件数30件の規模だったことから見ても今回は非常に盛況だったといえる。会長挨拶では他に、今大会はチェコ教育省など3団体のほかEU からも直接、学会開催の支援が得られたこと、チェコは学会創設メンバーのフレビチェック (Luděk Hřebíček) 氏やアルトマン (Gabriel Altmann) 氏ゆかりの国であることなども紹介された。なお日本からは九州大学の石井久美子氏、計量国語学会理事の山崎誠氏(国立国語研究所)と真田が、また英国からはオックスフォードに留学中の久屋愛実氏が参加した。

オロモウツはプラハと異なり日本人になじみのある都市ではないが、世界遺産に指定された聖三位一体柱が広場にあり、落ち着いた感じの街であった。大会開催校パラツキー大学はプラハのカレル大学に次いで古く、1566年に設立された。8学部を有し学生数約24,000名の大学で、日本語学科もあるとのことだった。

# 2. 講演・研究発表について

大会は朝9時から18時ごろまで30分単位で発表と質疑応答が行われた。第1日目はケラー (Reinhard Köhler) 氏の講演 "Quantitative Linguistics: Some Characteristics" で始まった。実証的な言語データの検証過程と理論的な Law, Theory の構築過程とをどのように結びつけて考えていくかという、いわば科学哲学に関する講演だった。個別的な言語データに向き合っている時(特に執筆の締切に追われている時)には、自分の中にあるべき、この分野の研究に対する姿勢や考え方、大局的な目標をついつい忘れがちで、その結果、一通りの有益な調査結果は得られるものの、研究自体がこぢんまりとまとまって、それをより一般化あるいは抽象化して理論として展開し構築していくことが難しくなるのではな

いかと、この講演を聞きながら自省した.

第1日目の研究発表は、特に Menzerath's Law(言語の語、節、文、文章など様々なレベルにおいて、より大きな構築物はより小さい構成要素から成るという法則)に関するセッションだった。このセッションの中には Biryukov 氏・Benešová 氏(パラツキー大学)の Menzerath's Law を日本語に適用した研究発表もあった。計量言語学では研究者自身の母語に限定されることなく研究手法や研究成果について海外の研究者と意見交換ができるということを改めて感じた。第2日目以降の研究発表では、Zipf's law などいわば古典的なトピック以外に、キーワードの集中度を指標化する試み、コーパスを用いた分析、ツイートの文体分析など様々なものがあった。また今回は中国からの参加者も多かったが、中国語の研究だけでなく英語を対象とした研究もあり、ここでも学会のグローバル化を実感した。

なお今大会における、日本語を対象とした研究発表題目は以下の通りである.

Biryukov, D. and Benešová, M. "Application of the Menzerath-Altmann Law to Contemporary Written Japanese".

Kuya, A. "Towards generalization of sociolinguistic distributions: English loanwords in contemporary written Japanese".

Sanada, H. "A co-occurrence and an order of the valency in Japanese sentences".

Tanaka-Ishii, K. and Aihara, S. "Quantitative Verification of Constancy Measures of Texts".

Yamazaki, M. "The influences of word unit and sentence length on the ratio of the parts of speech in Japanese".

### 3. 国際計量言語学会 (International Quantitative Linguistics Association) 会員総会

2日目の研究発表の後、会員総会も行われた。主な議題は、今期の会計報告・活動報告、役員の改選、規約変更に関する審議などであった。改選の結果、新会長はイタリア・パドバ大学のツッツィー (Arjuna Tuzzi) 氏に決まった。前会長ケーリッヒ (Emmerich Kelih) 氏も会長就任時には30代後半だったが、今回も40代の会長(女性会長としては2人目)で、若手を積極的に登用したい雰囲気が感じられた。真田とカナダのエンブルトン (Sheila Embleton) 氏は任期の定めのない International Representatives and Liaisons という役員、ケラー (Reinhard Köhler) 氏は学会論文誌 Journal of Quantitative Linguistics の編集長で、これらは特に変更はない。

Journal of Quantitative Linguistics は学会論文誌ではあるが、同時に非会員からの投稿も広く受け付けている。この論文誌に関する活動報告も行われたが、近年、学術誌のランクで比較的上位に入っているとのことであった。編集長のポリシーだという「To help authors, to improve papers」という言葉が印象的であった。

審議事項の中には、学会事務局の登録住所や学会の銀行口座をどの国に置き、どの国の法律の適用を受けるのがよいか、というものもあった。役員の居住国や国籍もEUを中心に多岐に渡り、定期的に役員は交代になるが、この学会のような小規模の非営利団体であってもその扱いは各国によって少しずつ異なる。このような事項は日本ではあまり身近な問題ではないが、今後、学会の活動が広がるにつれて起こりうる問題かもしれない。

#### 4. 次回の国際計量言語学会大会について

前回の大会(2012 年4月、於セルビア・ベオグラード大学)から、以後2年ごとの開催を目指すことになった。2年後の2016年は折しも学会設立メンバーの一人であるドイツ・トリア大学のケラー教授 (Prof. Reinhard Köhler) の定年退官の年ということで、これを記念して2016年8月にドイツ・トリア大学で開催することが検討されている。

国際計量言語学会は会員・非会員の区別なく大会での発表を受け付けている。申込み受付期間はおよそ1年前から半年前くらいの間で、学会ホームページや Linguistlist.org など言語学関係のサイトで告知される。大会によってテーマが設定されることもあるが、多くの場合は言語学、自然言語処理、翻訳学、論理学、コーパスの利用者など多様な背景の研究者が集まるため、個別的に新しい共同研究の輪が広がることもあるようである。

### 文献

- Altmann, Gabriel. (1980). Prolegomena to Menzerath's law. In: Grotjahn, R. (ed.), *Glottometrika*, 2: 1-10.
- Cramer, Irene M. (2005). The Parameters of the Altmann-Menzerath Law, *Journal of Quantitative Linguistics*, 12(1):41-52.
- Grzybek, Peter; Kelih, Emmerich; Macutek, Jan. (eds.) (2010). *Text and Language.* Structures Functions Interrelations Quantitative Perspectives. Wien: Praesens Verlag.
- Hřebíček, Luděk. (1989). Menzerath-Altmann's law on the semantic level. In: Hřebíček, L. (ed.), *Glottometrika*, 11, 47-56. Bochum: Brockmeyer.
- Hřebíček, Luděk. (1995). Text levels: language constructs, constituents and the Menzerath-Altmann law. Trier: WVT.
- Menzerath, Paul. (1954). Die Architektonik des deutschen Wortschatzes. Bonn: Dümmler.
- Obradović, Ivan; Kelih, Emmerich; Köhler, Reinhard. (eds.) (2013). Methods and Applications of Quantitative Linguistics: Selected papers of the VIIIth International Conference on Quantitative Linguistics (QUALICO) in Belgrade, Serbia, April 26-29, 2012. Berglade: Akademska misao.

(2014年7月13日受付)

Mathematical Linguistics, Vol.29 No.6 (September 2014) pp.235-238.

Conference Report

# QUALICO2014

International Quantitative Linguistics Conference at Palacký University in Olomouc, Czech Republic

Haruko Sanada (Rissho University)

#### Abstract:

International Quantitative Linguistics Conference 2014 (QUALICO 2014) was held at Palacký University in Olomouc, Czech Republic from May, 29th to June, 1st. The 20th anniversary of the International Quantitative Linguistics Association (IQLA) and the 20th anniversary of the Journal of Quantitative Linguistics (JQL) were celebrated. 65 talks and posters were accepted from 85 submitted abstracts, and there were ca. 60 participants coming from over 20 different countries. The sessions started with the opening lecture "Quantitative Linguistics: Some Characteristics" by Reinhard Köhler (Germany), followed by sessions on the Menzerath's Law. There were four papers on Japanese quantitative linguistics by not only Japanese linguists but also Czech researchers. IQLA Council Business Meeting was also held and the new president was selected. The next conference will be scheduled in August 2016 at Trier University in Germany.